

今週のトピック – 2015年6月15日

【米景気拡大期と政策金利】

今週のチャートでは、全米経済研究所 (the National Bureau of Economic Research (NBER)) によって示された過去の米国の景気サイクルの期間を、FRBの政策金利とともに表しています。2009年6月に始まったとされる今回の景気拡大期は、1970年以降の平均的な景気拡大期の長さ(6年半)と概ね同等の長さで、金融危機前の2000年代のサイクルともほぼ同じ期間です。過去最も長期に亘った景気拡大期間は1991年から2001年までで、その後「ドットコム」バブル崩壊後の比較的傷が浅いリセッションに突入しました。



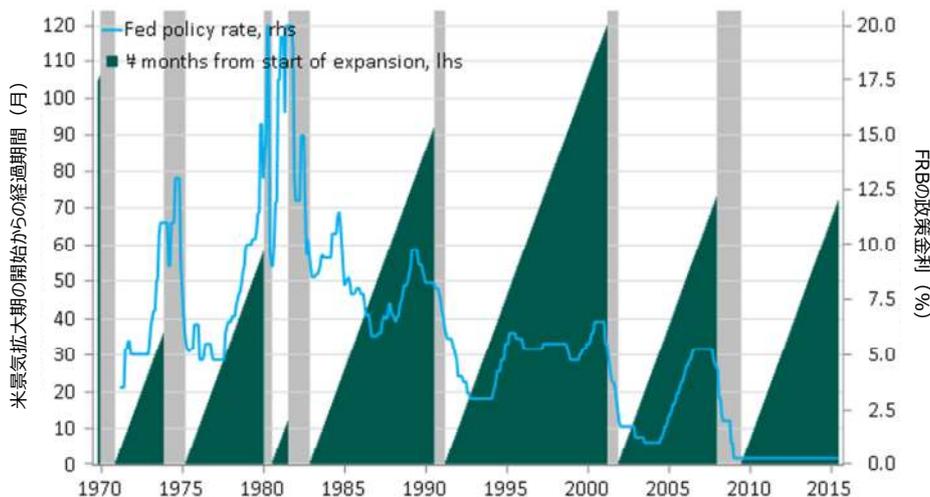
デビッド・ライリー

パートナー兼クレジット戦略ヘッド

【今回の景気拡大期の違い】

チャートが示す通り、今回の景気拡大で最も衝撃的なのは、相対的に成熟期に達してはいるものの、FRBがまだ政策金利の引き上げを開始していないということです。金融危機の遺産と、その後の相対的に緩やかな景気回復が、足元の景気回復期が比較的長期に亘っている状況につながっていると見ています。しかしそれを考慮しても、景気回復が始まって6年を経た今でも、FRBの政策金利が依然としてゼロ近辺にあるという現状を予想した人は多くないでしょう。6月16-17日に予定されているFOMC会合後に、FRBは政策金利の引き上げ開始に向けてまた一歩近づくこととなります。

図1. 米景気拡大期の長さFRBの政策金利



注意：灰色の部分、NBERが不況と認定している期間です。

出所：Macrobondのデータを基にBluebayが算出；2015年5月時点

ブルーベイ・アセット・マネジメント・インターナショナル・リミテッド
 関東財務局長（金商）第 1029 号
 加入協会：一般社団法人日本投資顧問業協会

本資料は受領者への情報提供のみを目的としており、特定の運用商品やサービスの提供、勧誘、推奨を目的としたものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、当社がその正確性、完全性、妥当性を保証するものではありません。記載された内容は、資料作成時点（2015年6月15日）のものであり、今後予告なく変更される可能性があります。過去の実績及びシミュレーション結果は、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。なお、当社による書面による事前の許可なく、本資料およびその一部を複製・転用・ならびに配布することはご遠慮下さい。当社と金融商品取引契約の締結に至る場合には、別途「契約締結前交付書面」等をお渡ししますので、当該書面等の内容を十分にお読みいただき、必要に応じて専門家にご相談の上、お客様ご自身のご判断でなさるようお願いいたします。